

県内地域史

研究会紹介

(七)

大分の石橋を研究する会

① 会 名 大分の石橋を研究する会

② 事務局所在地 大分市王子新町一―一五 エル―セラ

王子 三〇三号 日向野良世方(☎〇九

七五―四五―四四三七)

③ 発足年月日 昭和五三年一月

④ 会長 名 代表 日向野良世

⑤ 会員 数 六二名

⑥ 会 誌 名 大分の石橋を研究する会会報(年三回程

度発行)と隔年に発行する会誌「おおい

たの石橋」

⑦ 最近数号の主な目次【会誌・おおいの石橋】

「第四号」赤松橋の保全について(大分の石橋を研究する会)

近代石拱橋と大分県(田村貞夫)ガールの水道橋(日向野良世)

変わった石橋あれこれ(岡崎文雄)〔第五号〕平成二年七月豪雨・豊肥地区石橋損壊(長嶺一生)セゴビアの水道橋(日向野良世)〔第六号〕幻の仙石橋・史跡価値と顕彰(田村貞夫)石造アーチ橋のための力学入門(平野喜三郎)阿蘇溶結凝灰岩誕生のドラマ(北野敬一)〔第七号〕大分のアーチ石橋について(丸小野昭治)安積疎水の建設(植木角彦・日向野良世)

【大分の石橋を研究する会・会報】

第七三号まで発行した「大分の石橋を研究する会・月報」に代えて、平成八年一〇月から「大分の石橋を研究する会・会報」を発行。「第一号」全国の石橋を愛好する人で結成した「日本の石橋を守る会・天草総会」参加の記録。平成八年一月に開催される第一五回石橋探勝バスの日程並びに行程について。石橋公開研究発表会について「第二号」石橋探勝バスの実施結果並びに石橋公開研究発表会結果について。平成一〇年度日本の石橋を守る会・大分総会について

⑧ 活動状況

当会は、昭和五三年一月に、石橋を愛好する有志により発足した。その後、会員は、現在六二名である。

会には、会則、会費などの規定がなく、加入、脱退も自由

である。会長を置かず、代表を設け、初代田村卓夫、二代長嶺一生、現在日向野良世が代表となっている。

主な活動としては、会員各自が石橋の調査、研究を行い、その結果を、年に三回程催される例会で発表、情報交換を行い、外部に発表するとともに、石橋の保護・顕彰を行ってきた。会の啓発活動によって世間一般の石橋に対する理解が得られ、その結果、橋の架替えの際に取壊されず、残される石橋が増えてきたことは同慶に堪えない。

i 新聞での研究成果の発表 田村卓夫会員が、大分合同新聞に昭和五五年一月から「大分の石橋」を二四回連載、また、昭和五六年四月から「石橋を歩く」を一八回連載した。更に、その後の研究成果を踏まえて、平成一年八月から「石橋一五年」を三二回にわたって連載、石橋の啓蒙に努めた。

ii 石橋探勝バスの実施 昭和五六年一〇月から一般の人々の参加を募り、毎年実施し、一五回になる。ここ数年は希望者が多く、大型バス三台、参加者一二〇名と好評のようである。

iii 大分の石橋を研究する会・月報の発行 平成二年五月から会員を対象に「大分の石橋を研究する会・月報」が毎月発行された。会員の研究成果の発表、情報交換などで、平成

八年四月第七三号まで発行した。

iv 大分の石橋を研究する会・会報の発行 平成八年一〇月から月報を会報と改め、年間三回程度の発行となった。

v 会誌「おおいたの石橋」の発行 会員の研究成果の発表の場として、昭和五八年一二月第一号を発行、以降隔年に発行している。本年四月第八号を発行する。

vi 日本の石橋を守る会への参加 我が国の石橋に愛着を持ち、その保全に積極的な同好の士で構成する全国組織の会として、昭和五五年九月に結束され、大分県からも会の趣旨に賛同する数十名が加入して、活動している。

vii 研究成果の発行 これまでに次のような研究成果が発表されている。

・大分県の石造アーチ橋一覧表(会誌第二号に掲載)・おおいたの石橋総合資料集(大分の石橋を研究する会)・大分の石橋記念碑(岡崎文雄)・写真集「魅せられて 里の石橋たち」(高山淳吉・岡崎文雄・薬師寺義則)・写真集 勾欄―「東柱物語」(三浦朴)・写真集「伝えたい ふるさとの石橋」(岡崎文雄・高山淳吉・薬師寺義則)

(大分の石橋を研究する会 大久保美夫)